

TSIホールディングス

3～5月は減収減益

ビッグデータ解析に着手

TSIホールディングスの2017年3～5月連結決算は売上高が388億円(前年同期比6・0%減)、営業利益17億円(29・2%減)、経常利益19億円(26・9%減)、純利益11億円(36・0%減)と、減収減益だった。減収は廃止ブランドによるもので、既存ブランドで

改善した。「パーリーゲイツ」「ヒューマンウーマン」「ニアファイザー」「リッシェ」が増収で粗利も向上。しかし「ナノ・ユニバース」「ローズパッド」は減収で粗利益率も低下した。ナノ・ユニバースは10店の閉鎖と昨年の春夏物の在庫処理の値引きが響いた。ローズパッドは人材の補強をしたが、建て直し中という。主な販路別売上高では百貨店が77億円(12・1%減)、非百貨店197億

円(4・6%減)、EC59億円(11・9%増)、海外19億円(16・7%減)。EC化率は15・2%となり、この期間にスマーフォン専用アプリを17ブランド立ち上げた。他社ECサイトは2モールと連携し、17モールとなった。EC人材不足が課題で、社内公募・社内教育を進める。ビッグデータ解析は5ブランドでスタートを開始。海外は「Mツボミ」が中国の検閲の影響などで苦戦した。MD改革などこ入れを図る。